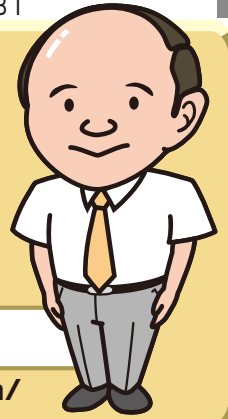




西野まさひと

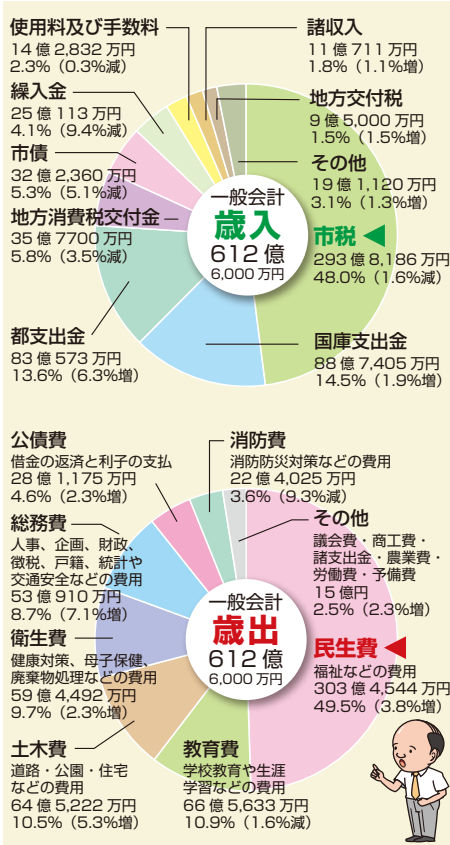
活動報告 No.38



ハッキリ言います! 市政にひとこと!

【ホームページもみてね!】 <http://www.nishino1.com/>

■ 西野まさひと友の会では、3月議会で審議された、新年度の予算をはじめとする主要事業等についてご報告いたします。



※予算額の千円単位を四捨五入しています

一般会計 民生費いよいよ市税収入を上回る!

第29代日野市議会議員に選出され、この3月議会で1年が経ちました。この間、無事に議長職を務めることができましたのも、各会派の議員をはじめ市民の皆様のご理解の賜物と心より感謝申し上げます。議長就任時の挨拶で述べた「18万2千人の市民の為の市議会である事を認識し、更正・公平をモットーに中立な立場で議会運営を進めたい」との初心を忘れず残された任期をまっとうしたいと思います。

さて、今議会では平成29年度予算が審議・可決されました。予算の総額は612億6千万円で昨年度から0.4%の減額となりました。歳入では景気の緩やかな回復を受け、個人市民税は増収となりますが、法人市民税等の減収から、市税全体では1.6%の減収となります。そして歳出では福祉関連予算である民生費が303億4,543万円となり、いよいよ300億円を超え市税収入を上回りました。

かつて日野5社といわれた世界に誇る優良企業の牽引によって支えられてきた好財政時代はすでに過去のものとなり、大手企業の市外への流出が続くなど、これからの市政運営は容易ではありません。4月にはこれからの市政の舵取り役である市長を選出する市長選挙が予定されておりますが、日野市にとって重要な選挙となります。市政の現状をかんがみると、市長には市民要望として高い社会保障関連の分野に強く、市政運営全体を見ることができると言われるバランス感覚が不可欠と言わざるをえません。多くの方々に関心をお持ち頂き、是非、選挙に参加して頂きたいと願っています。

日野市議会議員 西野正人



これまで提言・質問してきた事案で今年度予算化されたものを紹介!

● 日野市本庁舎の免震化及び長寿命化計画の推進 2億1,542万円

本庁舎の耐震診断と耐震化について、平成19年の12月議会で一般質問に取り上げて以来、幾度にもわたり質問してまいりましたが馬場市政下では「子供やお年寄りより市職員を優先できない」との意向で実現せず。市内全ての市立小中学校舎の耐震化が完了したのち、平成24年に耐震診断が実施されました。その結果は「耐震性能を満足せず、補強が必要な建物」でありました。本庁舎は多くの市民が来庁する場であるだけでなく、災害時に指令塔となるべき重要な拠点施設であります。市では基本設計業務を終え、免震工法による耐震化にむけ平成29年度の予算化が実現しました。基本計画では平成32年完了を目指し、総予算は27億7,344万円としています。



● LED街路灯導入促進事業—市内街路灯約12,000基のLED化 449万円

日野市内の市道街路灯のLED化を、民間との協働で街路灯導入をリース・補助金活用によって一気に進める事業を積極的に進めるべきと提言してまいりましたが、いよいよ今年度から始まります。



「共に創ろう まちの明るい未来」

諸力融合の力で市民ひとりひとりが主役となる
ポスト・ベッドタウンを実現します

おおつぼ冬彦 さん

西野正人議長には市議会の要として日野市政の発展のためご尽力を頂くとともに、一議員としても常に歯に衣着せぬ直言で市政に対する的確なアドバイスを頂き感謝しております。また、日頃から西野議長をご支援しておられる皆様にご場をおかりして感謝申し上げます。私が多くの市民の皆様のご支援を受け、平成25年4月に日野市長に就任させていただき、すでに4年が過ぎようとしています。この間私は、4期16年間続いた馬場市政を継承しながら、「住み慣れた地域で生き、看取られる、暮らし・福祉・医療の展開」「日野市の良さである恵まれた社会的・自然的資源を生かし、地域の個性を伸ばすまちづくりの推進」「厳しい財政状況を踏まえた経営戦略に基づく市政の運営」の3点を基本姿勢として市政に取り組んでまいりました。

とりわけ、人口減少を伴う高齢化が大きく問題化されると言われる2025年、2040年を見据えて、諸力融合により、地域コミュニティの活性化をはかり、様々な地域で活躍されている皆様と連携協力のもと、地域の課題解決に取り組んでまいりました。

今後は、『日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略』に基づき、職と住と育と遊と介護を再結合して、多様な住民が自分たちの世代や社会を再生産するポスト・ベッドタウン、暮らしやすさだけでなく働きやすさも兼ね備えた職住近接の生活価値共創都市を目指し、日野市の未来を拓いてまいります。

日野市長 大坪冬彦

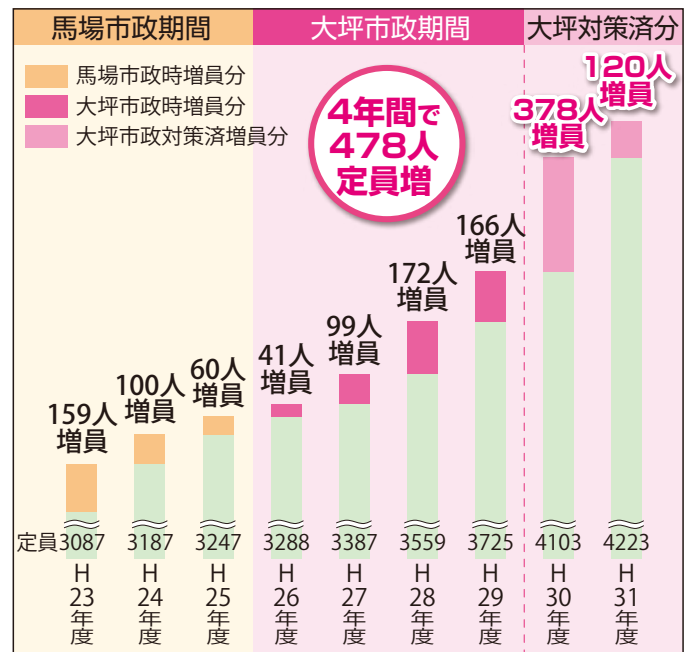
大坪冬彦市長の4年間の主な実績とこれからの取組み

待機児解消へ976人*の定員を増やす!

日野市の未来の宝である子供達の子育て支援は、大坪市政でも特に重要施策として取り組み、なかでも待機児解消に向けて大きな成果を上げています。大坪市長が実質的な指揮を執った平成26年度からの4年間で実に**478人**の保育園の定員拡大を実現しています。また、すでに準備をすすめる開設予定の施設も含めると平成30年度では378人、平成31年度では120人、総合計で**976人***と、実に1,000人近い定員増を実現しています。

認証保育所入所者の負担も大幅軽減!

また、認証保育所をご利用の方々の負担を軽減するために、これまで1児童につき**月額1万8千円**の補助を支給する制度を実施していました。そして平成29年度には、この制度をより公平で実質的にお困りの方を救済する制度にすべく、所得区分と多子区分等分け、**月額7千円**から**5万2千円**の補助にしました。



子どもの貧困対策に、子ども学習支援施設「ほっとも」を4カ所開設!

大坪市政では、子どもの貧困問題を深刻に捉え、早々にその実態調査に着手し、その結果を踏まえて「子どもの貧困対策基本方針」を策定しました。そして子ども達の学習・居場所支援施設「ほっとも」を3カ所開設しました。「ほっとも」は、「ほっと」する「とも(だち)」が集える場所という意味です。平成29年度にはさらに1カ所を増設することとしました。また、これまで2名体制だったスクールソーシャルワーカーの配置を4名体制に増員することとしました。

